令和３年度

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

ひかりの岬こどもデイサービスセンター利用児童の保護者による評価調査報告書

調査概要

1.目的

去る平成29年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されました。

また、平成29年4月より児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準（平成２４年２月厚生労働省令第１５号）の規定により、障害児通所支援事業者に、自己評価等の公表が義務付けられたことを受け、法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の利用者を対象に、事業所が提供しているサービスついてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2.調査対象

放課後等デイサービスを利用している児童の保護者31名を対象に調査を実施した。24名から回答があり、回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率　77.4%　　有効回答率　100%

3.調査期間

令和4年1月11日（火）～令和4年1月29日（土）

4.調査方法

厚生労働省による「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に、5件法および自由記述で回答いただいた。調査は調査票に記入していただく方式とし、事業所の担当者から各保護者に調査依頼文書等とあわせて配布した。

調査票の回収は、個人が特定できないようにし、調査票と共に配布した返信用封筒にて郵送していただいた。

5.倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。

ひかりの岬こどもデイサービスセンター保護者評価集計表

回答77%　有効回答数24名

	チェック項目	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらとも言えない		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
		人数（人）	構成	人数（人）	構成	人数（人）	構成	人数（人）	構成	人数（人）	構成	人数（人）	構成
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	13	54%	9	38%	2	8%	0	0%	0	0%	0	0%
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	10	42%	9	38%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	2	8%	15	63%	5	21%	2	8%	0	0%	0	0%
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	20	83%	4	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	19	79%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	16	67%	7	29%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	19	79%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	15	63%	9	38%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	16	67%	6	25%	2	8%	0	0%	0	0%	0	0%
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	5	21%	12	50%	5	21%	1	4%	0	0%	1	4%
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	19	79%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	20	83%	3	13%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	2	8%	5	21%	13	54%	3	13%	0	0%	1	4%
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	15	63%	9	38%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	7	29%	11	46%	5	21%	0	0%	1	4%	0	0%
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	6	25%	11	46%	7	29%	0	0%	0	0%	0	0%
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	20	83%	3	13%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計を踏まえた対応等について

	チェック項目	調査結果から感じた対応について
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	中立的な回答もあるため、活動内容における各部屋の使用目的を統合しつつ、子どもたちが混乱なく過ごせるようにしていく。
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	中立的な回答が若干多めのため、職員数が多いと感じているのか、少ないと感じているのか、この設問からは読み取れないが、利用している人に適切だと思ってもらえるように心がける
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	設備としては、玄関スロープ、身体介助用のスペース等が必要と考えられる。人的サポートは常に意識する。
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	ほぼ行われていると考えられるが、今以上に分かりやすい説明を意識する。
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	肯定的な回答が多いので、今後も丁寧な説明を心がける
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	個人情報記載のものについては、管理方法も含め、丁寧な説明を心がける。
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	HP上での情報開示が浸透してきているように感じるが、それ以外での発信も心掛けるようにする
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	今後も面談時の確認、見直し、申し送り時の情報等を参考にしていく。
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	活動が、パターン化、マンネリ化しない様心がける。
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	コロナの影響により、例年より少なかった。また、望んでいない保護者もいるので、ニーズの把握は必要かと思われる
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	今後も普段の家庭への申し送りや職員間の申し送り、メール等を活用し、情報共有していく。
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	感染症対策のため、頻繁に面談の機会を設けることは難しかったが、気軽に相談できる環境を整えたい。
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	コロナ禍が終息したら、何らかの方法で連携できる機会を設けられればと思う
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	苦情等には、早めに丁寧に対応し、職員間の認識、周知を高めていきたい。
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	各マニュアルを閲覧したもらえるようにしていく
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	訓練の模様を伝えられるように工夫する
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	回答から、ほぼ全ての児童が楽しんでくれていると考えられる。

【総評】

令和３年度

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

ひかりの岬こどもデイサービスセンター職員による
自己評価調査報告書

特定非営利活動法人　光の岬福祉研究会

調査概要

1.目的

去る2017年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されたことを受け（平成29年4月からは義務実施）、NPO法人光の岬福祉研究会の依頼に基づき、同法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の職員を対象に、事業所が提供しているサービスついてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2.調査対象

当該法人の運営するひかりの岬こどもデイサービスセンターで、直接子どもと関わり支援をしている職員6名を対象に実施した。各調査対象への回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率100.0%　　有効回答率100.0%

3.調査期間

令和4年2月3日（木）～令和4年2月10日（木）

4.調査方法

厚生労働省が示す「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に調査項目を設け、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で調査票を作成した。

主な調査項目は以下のとおりである。

①環境・体制整備（活動スペース、職員配置数の適否についてなど）
②業務改善（PDCAサイクルへの職員参加、自己評価結果の公表など）
③適切な支援の提供（面談の有無、プログラムが固定化しない工夫など）
④関係機関や保護者との連携（学校との情報共有など）
⑤保護者への説明責任（利用者負担等についての説明、個人情報の扱いなど）
⑥非常時等の対応（避難訓練等の実施、ヒヤリハット集の作成など）
⑦回答者の属性（年齢、障害児福祉分野での経験年数）
⑧その他

5.倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。

ひかりの岬こどもデイサービスセンター職員評価集計表

回答率100%　有効回答数6名

	チェック項目	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらとも言えない		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
		人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比
①	Q1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	6%	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
②	Q2 職員の 配置数は適切である	1	6%	2	13%	3	19%	0	0%	0	0%	0	0%
③	Q3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	0%	0	0%	1	6%	3	19%	2	13%	0	0%
④	Q4 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	6%	3	19%	1	6%	0	0%	1	6%	0	0%
⑤	Q5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	31%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
⑥	Q6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	13%	2	13%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
⑦	Q7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	13%	3	19%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%
⑧	Q8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	25%	0	0%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
⑨	Q9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	6%	1	6%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%
⑩	Q10 活動プログラムの立案をチームで行っている	2	13%	1	6%	3	19%	0	0%	0	0%	0	0%
⑪	Q11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	19%	0	0%	3	19%	0	0%	0	0%	0	0%
⑫	Q12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	1	6%	1	6%	3	19%	1	6%	0	0%	0	0%
⑬	Q13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	1	6%	3	19%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
⑭	Q14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	31%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑮	Q15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	6%	3	19%	1	6%	1	6%	0	0%	0	0%
⑯	Q16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	25%	1	6%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
⑰	Q17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	25%	1	6%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
⑱	Q18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	2	13%	1	6%	2	13%	1	6%	0	0%	0	0%
⑲	Q19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	13%	2	13%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
⑳	Q20 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	19%	2	13%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
㉑	Q21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	6%	2	13%	0	0%	0	0%	3	19%	0	0%

ひかりの岬こどもデイサービスセンター

㉒	Q22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	0%	4	25%	1	6%	0	0%	1	6%	0	0%
㉓	Q23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	19%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
㉔	Q24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	0%	0	0%	3	19%	2	13%	0	0%	1	6%
㉕	Q25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6%	0	0%	1	6%	0	0%	3	19%	1	6%
㉖	Q26 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0	0%	0	0%	2	13%	0	0%	3	19%	1	6%
㉗	Q27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	2	13%	3	19%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
㉘	Q28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	0%	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%	1	6%
㉙	Q29 運営規程 、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	6%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
㉚	Q30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
㉛	Q31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0%	1	6%	2	13%	0	0%	2	13%	1	6%
㉜	Q32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	25%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	1	6%
㉝	Q33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	19%	2	13%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
㉞	Q34 個人情報に十分注意しているか	2	13%	4	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
㉟	Q35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	1	6%	4	25%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
㊱	Q36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0%	0	0%	3	19%	0	0%	2	13%	1	6%
㊲	Q37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル 、感染症対応マニュアル を策定し、職員や保護者に周知している	1	6%	3	19%	1	6%	0	0%	0	0%	1	6%
㊳	Q38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	0%	4	25%	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
㊴	Q39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	6%	2	13%	3	19%	0	0%	0	0%	0	0%
㊵	Q40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	6%	3	19%	1	6%	0	0%	0	0%	1	6%
㊶	Q41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	6%	4	25%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%
㊷	Q42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	13%	0	0%	1	6%	0	0%	2	13%	1	6%

ひかりの岬こどもデイサービスセンター職員評価集計表

回答率100%　有効回答数6名

	チェック項目	工夫している点、課題や改善すべき点など
①	Q1　利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	児童同士の相性により難しい場面もあるが、特性を見ながら物理面以外での工夫もしてみる。
②	Q2　職員の 配置数は適切である	送迎等で不足していると思われる
③	Q3　事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	ハード面での改修計画は引き続き必要と思われる
④	Q4　業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	勤務年数等により計画を立て、振り返りを丁寧に行うようにする
⑤	Q5　この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	公開している
⑥	Q6　第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	外部評価が業務改善につながるような仕組みを作っていく
⑦	Q7　職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	待つだけではなく、職員自身からも受講したい研修があれば発信していくようにする。
⑧	Q8　アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	アセスメントの方法を理解するようにする
⑨	Q9　子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	アセスメントツールを見直す機会を定期的に設ける
⑩	Q10　活動プログラムの立案をチームで行っている	チームで話し合って決める
⑪	Q11　活動プログラムが固定化しないよう工夫している	固定化していると感じたら、積極的に改善していく
⑫	Q12　平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	利用時間の長短にあわせて設定し、設定したら話し合う
⑬	Q13　子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	今後も継続していく
⑭	Q14　支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	今後も継続していく
⑮	Q15　支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	送迎の状況等では、次の日になることもあるが、共有は心掛けている
⑯	Q16　日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	今後も継続していく
⑰	Q17　定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	今後も継続していく
⑱	Q18　ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	勤務歴により理解度に差があるかもしれないので、職員にガイドラインを説明する機会を設ける
⑲	Q19　障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	情報の共有を元んに、自発管が出席している
⑳	Q20　学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	今後も継続していく
㉑	Q21　医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	受け入れに対しての体制の整備が必要

ひかりの岬こどもデイサービスセンター

㉒	Q22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	各園とも調整が必要だが、努めてていきたい
㉓	Q23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	以降支援会議、以降シート等で提供している
㉔	Q24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	連携できる体制を整える
㉕	Q25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	交流の機会を増やすようにする
㉖	Q26 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	可能な限り参加するようにする
㉗	Q27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	今後も継続し、共通理解を持つように努める
㉘	Q28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	個別のサポートになってしまいがちだが、保護者の理解も深めるようにしていく
㉙	Q29 運営規程 、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	ほぼできている
㉚	Q30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	家庭では、どのようなことが出来るかを考えながら、助言を行っている
㉛	Q31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	コロナ禍の終息後に、何らかの形で連携の機会を作っていきたい
㉜	Q32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	信頼関係の構築に努めながら、早く正確に情報共有をし、対応している
㉝	Q33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	ほぼできている
㉞	Q34 個人情報に十分注意しているか	ほぼできている
㉟	Q35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	特性に合わせてのコミュニケーションを工夫している
㊱	Q36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	何らかの形で連携の機会を作り、利用児童の生活の幅を広げるようにしていきたい
㊲	Q37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル 、感染症対応マニュアル を策定し、職員や保護者に周知している	必要に応じてマニュアルを配布する等し、意見を求める
㊳	Q38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年4回の実施を目指したい
㊴	Q39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	研修や、セルフチェックで虐待の防止に努める
㊵	Q40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	必要がある場合には、計画へ記載し、説明の了解をいただいている
㊶	Q41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギー一覧表を作成している。今後も注意していきたい
㊷	Q42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	事例集を作成し、活用するようにする